

## ThorensTD124 の導入(5)

### ーカートリッジの検討ー

#### 1. 始めに

前報(4)までのトランスとの組み合わせに引き続いてカートリッジについて試聴していきます。

#### 2. ThorensTD124 の試聴方法

今回は、トランスを前報(3)と前報(4)の試聴において、ニュートラルでもっとも細かいニュアンスが聴き取れた My Sonic Stage 1030 に固定し、カートリッジを替えて若松通商の Maraz7 タイプのプリ経由で聴いて行きます。

カートリッジは、前報(4)までの SPU Synergy (写真左)に加えて、SPU Classic G (写真右)を使用します。



試聴音源は、前報(4)と同様、聴きなれた下記を使用しました。

**LONDON SLC 1138**

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

**ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020**

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

**harmonia mundi(Deutche) KUX-3248-H**

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン  
キングレコード SKA-104  
愛と自然の歌  
倍賞千恵子

### 3. ThorensTD124 の試聴方結果

SPU Synergy では、前報(4)のとおりですが、SPU Classic G に替えてみますと、三角帽子は、SPU Synergy から立ち上がりの良さが後退し、スリリングな趣が弱くなります。

チェンバロ協奏曲は、SPU Classic G は SPU Synergy とよく似た音ですが、切れ込みや爽やかさが後退し、おとなしい表現になります。

ミトマニアは、SPU Classic G は SPU Synergy とよく似た音ですが、ボーカルの抜けやバックの古楽器の質感は平凡になります。

倍賞千恵子は、SPU Synergy に比べると、やや大人しく、ボーカルのニュアンスの精度も後退しています。

基本的には、SPU Classic G は SPU Synergy とよく似た音ですが、出力電圧も低く、解像度が若干落ちますし、レトロな雰囲気が漂います。

### 4. まとめ

SPU Classic G と SPU Synergy はよく似た音ですが、SPU Synergy は年代が新しいだけあって進歩した音になっているのに反し、SPU Classic G は、ややレトロな印象です。

以上